

HB-style

2010 年
4 月号
Vol. 14



HB-style

Vol. 14 4月号

2010 年度 新メンバーの紹介

光物性研究室に 4 人のメンバーが加わった。彼らの自己紹介を特集する。

ページ 2



HB-style の作成を通じて感じたこと

HB-style が刊行されて一年。企画・編集を一手に担ってきた安齋が胸の内を語る。

ページ 3



光物性研究室カレンダー

新年度が始まった 2010 年 4 月。研究室では「花見」、「新歓」、「ソフトボール大会」とイベントが盛りだくさん。

ページ 4

2010 年度 新メンバーの紹介

鏡山に桜が咲き始め、春の訪れを感じる 4 月。光物性研究室に新たに 4 人のメンバーが加わった。それぞれの自己紹介と研究に対する意気込みをうかがった。

市来 健吾 (いちき けんご)



こんにちは、市来健吾です。光物性を希望した理由は、光物性の独自性のある最先端の研究に魅力を感じたからです。研究室の先輩方はやる気に満ちあふれているので、とても刺激があります。先輩方に負けない気で頑張ります！！ あと、将棋が好きです。

岡本 和晃 (おかもと かずあき)



今年から光物性研究室でお世話になることになった岡本和晃です。光物性研究室では HiSOR を使い幅広い分野の研究を行っていて、その中で広い視野が持てたら良いなと思いこの研究室を志望しました。一生懸命勉強して、少しでも早く先輩方と研究を楽しめるようになるため頑張ろうと思いますので宜しくお願いします。

福井 雅一 (ふくい まさかず)



今年から光物性研究室に配属された福井雅一です。うどんの国、香川県に生まれて、うどんで育ち、お酒の町西条にやってきました。すごく弱いですがお酒が大好きです。『光』を使った実験にすごく興味を持ったので、これから先輩方を見習って頑張っていきたいです。

前川 貴政 (まえかわ たかまさ)



光物性研究室に新たに配属された前川貴政です。この研究室を希望したのは先輩の卒論発表を聞いて面白そうだったからです。この一年間で自分を高めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

HB-style の制作を通して感じたこと

安齋 太陽



HU-style

広島大学広報グループが作成している広報誌に「HU-style」がある。芸能人や広大OB/OGのインタビュー記事、学生生活に役立つ情報が写真とともに紹介されている。内容も外装もしっかりしているのに無料であるため、思わず手を伸ばし読みふける広大生は多いだろう。実際、自分もその例に漏れず毎号欠かさず隔々まで読んでいる。

きっかけ

2007年の10月号である。HU-styleの表紙にある人物が掲載された。プロフィールを見ると同じ物理科の3年生(当時)。研究室配属が間近に迫っていたので、この子が光物性に入ってきたら面白いと話題になった。

その当時の自分はM1で、博士課程への進学を決意し、就職活動などの慌ただしさもなかった。心にゆとりがあったからだろう、ほんの思いつきだった。ある後輩の写真を「HU-style」風に加工したら面白いんじゃないかと考えた。完成図が左である。後輩の笑顔と見出しのもじり方が絶妙で、失笑した。この模倣品は一人歩きをはじめ、同期が「HB-style」と銘



処女作

打って10月号のパロディを作った。”HB”って何や?と聞くと、「俺たちは光物性やる。Hikari Busseiの略や」と。大爆笑(笑)。「HB-style」Vol.1が生まれた瞬間であった。

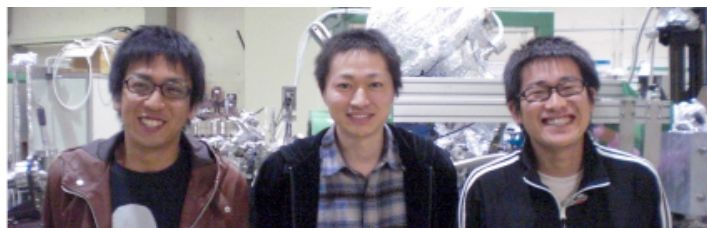
その後、”HU”-styleの表紙を飾った例の3年生は光物性へ配属され、鳥肌を立てた腕をひた隠しにしながら笑顔で迎え入れたのを覚えている。運命なのかギャグなのか。

らりるれろ

それから一年が経った昨年4月、表紙を作って楽しんでいるだけのHB-styleに、研究室メンバーの紹介や研究にまつわるネタを特集したら面白いんじゃないかと挙がった。ちょうど光物性がソフトボール大会で優勝し、盛り上がっていた時だった。初めは後輩が作った。しかし、らりるれろ、らりるれろと口出ししているうちに、自分でやった方が早いと思い「俺が作る→後輩がチェックする」という形に落ち着いた。日頃から写真を撮っていたことも功を奏し、いい塩梅に4月号(Vol.2)が完成した。本格的に始動したHB-styleは毎月発行となっている。本号Vol.14で13回目の発行。めでたく一周年となった。

研究する楽しさ

HB-styleとHU-styleの大きな違いは何だろう。模倣から始まったことだが、やるからには違いを明確にしたかった。HB-styleは光物性のHPで発行しているので、主な読者は内輪であったり、他大の人や一般の人であろう。いつも気をつけていることは「研究する楽しさ」を伝えることである。『研究』という単語は『難しそう』とか『複雑でわからない』といった印象を与えがち。それを排除したかった。研究の細かい内容はどうでもいい。実験する楽しさや発見の喜び、仲間との協力から生まれる一体感と感動の共有。その一つ一つが楽しい、と伝えたかった。研究は義務ではなく自発的な行動から生まれる。研究生ひとりひとりのメッセージから「研究する楽しさ」を感じてもらえれば、自分も幸せである。



HB-styleの作成にはHU-styleを参考にさせていただきました。また、黒田君と古本君には編集や取材でご協力していただきました。ここに心より感謝の意を表します。

2010年4月光物性研究室カレンダー

04.02 (金) 新入生歓迎のお花見会

快晴の4月2日、広島大学から徒歩15分程にある鏡山公園にて新入生を歓迎する花見が行われた。鏡山公園は東広島市屈指の桜の名所である。今年度は4名の学部生が加わり、光物性研究室はスタッフ3名、学生16名の総勢19名となった。初めて顔を合わす面々。お互い自己紹介を行い、出身地や趣味、特技などに話題は広がった。特に、新入生は大学院入試や研究内容、実験手法などを在學生に質問をしていた。



04.16 (金) 新入生歓迎会

4月16日夜、新入生歓迎会が行われた。まず初めに、毎年恒例となった広島大学放射光科学研究センター HiSOR での記念撮影を行った。その後



「磯の坊」に移動し、歓迎会が開かれた。谷口教授は、新入生は初めわからないことが多いだろうが、殻に閉じこもらず積極的にスタッフや先輩に質問しなさい、と激励を送った。一次会、二次会と会が進むに連れて、新入生と在學生の距離はどんどん縮まり、新しい光物性研究室の「和」ができていった。

04.24 (土) 物理科学科ソフトボール大会

天気に恵まれた4月24日、広島大学西条研修センターグラウンドにて、物理科学科ソフトボール大会が開催された。新入生を加

えた新規光物性チームで大会に臨んだ。しかし、豪腕ピッチャー木村准教授を欠く光物性チームは、ゲーム作りに苦戦し予選リーグで敗退した。その後は、予選敗退のチームで構成される下位リーグにて試合を行った。チーム全員が一丸となってプレーした結果、見事優勝を勝ち取り、賞状と豪華賞品を獲得した。光物性研究室の結束の強さを示した大会であった。

下位リーグ
優勝



編集部からのお知らせ

スタッフ募集

HB-style 企画・編集に参加していただける方を募集しています。

企画の募集

取り上げてほしい企画やテーマを募集しています。気軽にお寄せください。

今後の企画について

「液体 He の汲み出し」、「理学部 D 棟」、「HiSOR II 計画の現状」、「Igor」、「教えて！中島先生!!」、「光物性 OB / OG に聞きました」などのトピックを考えています。

発行予定について

毎月の発行を予定していますが、作者の都合により遅延、または休

刊となる場合があります。ご了承ください。

企画・編集：安齋太陽 (写真中)
編集・取材協力：黒田健太 (左)、古本一仁 (右)

